

第352回 番組審議会

1. 日 時 令和8年 6月 9日 (火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 6名

○ 出席委員 (敬称略)

会田 喜之 (副委員長)
— 50音順 —
石田 征広
大瀬 雅和
岸 真英
平野 順子
八木橋 伸之

○ 会社側出席者

高嶋 昇 (代表取締役社長)
君澤 温 (常務取締役)
小田島 健秀 (取締役総務局長)
櫻 克宏 (取締役営業編成局長)
近谷 利政 (取締役報道制作局長)
内記 和人 (報道部副部長)

○ 事務局

岩渕 博美

4. 議題 FNS ドキュメンタリー大賞ノミネート作品
「15年目の一歩 ～東日本大震災 子どもたちの記録～」
放送日時：令和8年5月23日（土）14：00～14：55

5. 議事概要

今回は5月23日に放送したFNS ドキュメンタリー大賞ノミネート作品『15年目の一歩～東日本大震災 子どもたちの記録～』について審議しました。

はじめにディレクターの内記和人が「震災を知らない世代が15歳になる。過去の出来事にしないよう、時間の重みをどのように表現するかが制作の出発点だった」「時間の流れを多面的に表現するため、3人の視点で震災を捉えた」と番組のテーマや内容について説明しました。

【委員からの意見】

委員からは「震災は終わっていないという面と、未来へ向かう姿の双方が入り混じる内容で非常に心に残った」「視聴者側も自分が過ごした15年間、そしてこれから生きていく時間を考えさせられる番組だった」「子どもにフォーカスしたことで、時間の経過を強く感じさせた」といった意見が出ました。

一方で、「15年経っての現状を、データを使った説明があるとよかった」「大学生が何を目指していて、なぜ留年しもう一年やろうと思ったのか。女子プロレスラーがなぜ男性だけのみちのくプロレスに来たのか、深い心情を聞きたかった」という意見もありました。